

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：安養寺権現堂の木造蔵王権現立像				

所在地	吉野郡大淀町中増724				
所有者(取材 対応者)名	安養寺(安養寺**住職 大淀町学芸員 松田 度氏)(個人情報守秘)		連絡先 0746-32-3702 (安養寺)		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：大淀町教育委員会事務局文化振興課 松田度学芸員				
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造蔵王権現立像 2017(平成29)年8月7日指定			
	建造物 棟				
文化財指定理由	平安時代末の像容、色彩をよく残し地域の信仰の対象として現在も大切に受け継がれている。現在確認できる限りにおいて吉野地域に残る最古の木造蔵王権現立像である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	権現堂は特に消火設備がないが造りは頑丈である。風が強い地区なので障子をガラスの金属製枠にしている。住職さんは隣の庫裡に住んでおられるので火災時の対応は早い。また地区の消防団の一員になるなど地区の役割を担っておられる。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	権現堂は江戸後期の建立ではあるが、屋根の葺き替え、柱・壁の塗り替え補修で大切に保存されている。鹿、猪、アライグマは出るようだが直接の被害はないとのことである。	建物が堅固なので獣等は入りにくい様子である。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	中増地区は稲作とお茶づくり(日干番茶)で有名で、地域の経済的地盤はしっかりしていて建物も維持されてきた。安養寺も浄土宗の檀家寺で地域で大切にされている。ただ地区の戸数も10年前は138戸あったのが、現在は108戸に減り檀家数も半減している。住職さんは他から頼まれながらも庫裡にお住まいになりお務め頂いている。まだお若い住職さんで後継者の問題は将来のことだろうが、寺の維持の問題が出てくるだろう。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

安養寺が改宗される以前から蔵王権現立像の祠があったようなので、宗派が違っても権現堂を守ってこられたお寺や地域の方々の信心深さには感心する。以前は修験者も本寺に來たり伊勢講や観音講もあったが戸数減で回せなくなり止めたとのことである。修験者による参拝が復活できたらと思う。さらには学芸員さんをお願いして出来るだけ記録や映像を残していきたいとのことである。YouTube「大淀二十一選～次代へつなぐ地域遺産～」を参照のこと。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：安養寺権現堂の木造蔵王権現立像				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 木造蔵王権現立像

文化財 (正面写真)	蔵王権現堂
	

顔写真

安養寺

	
--	---

文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

木造蔵王権現立像は高さ33.8cmで厨子に入っている。材質は桧で彩色・截金が施されている。平安時代末期(12世紀)の特徴を示す。脇侍2軀(蔵王権現と不動明王?)を持つ。脇侍、台座、厨子は後補。吉野山の金峯山寺蔵王堂の末木(うらき)から作られたと伝えられ、四方の守りとして厨子に入れられ、北方(中増地区)に置かれたものと考えられている。

吉野地域最も古い木造蔵王権現立像である。権現堂は1713(正徳3)年の棟札があり、金峯山寺蔵王堂改築の時、四方に安全立地を祈り建立したお堂の一つと伝えられている。(大淀町ホームページより)

安養寺は開創は不明、当初は真言宗の寺であったが、後に浄土宗に改宗された。本尊は阿弥陀如来立像である。権現堂で蔵王権現を祀っていることから金峯山寺と同日の4月11日に花供会式を行っている。中増地区は茶業で財を成した人が多く、権現堂のほか安佐谷地区にあった聖観音坐像を祀る観音堂や本堂に大型の観経曼荼羅が寄進されて残っている。また境内には地域の名産である大和茶の仲間の増茶(日干番茶)の製法を伝えた籠屋忠次郎の追慕碑がある。